

式辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。例年と違い、各学科ごとではありますが、ここに第六十回卒業証書・学位記授与式を挙行することができ、本当に嬉しく思っています。帯広大谷短期大学教職員並びに関係者を代表して、一言お祝いを申し上げます。

さて、昨年从今年にかけて新型コロナウイルスの世界的な流行があり、ここ十勝もその渦の中に巻き込まれている現状です。皆さんは2年生になってから本当に辛く、悩み、そして苦しい時期を過ごしてきたと思います。「どうして」「よりによって」、などと嘆き、自暴自棄になったこともあったのではないのでしょうか。それでも、この厳しく切ない現状を静かに受け入れ、その都度適切に対応してくれた皆さんに、私は心からお礼を申し上げたいし、また皆さんを誇りに思っています。それは自分本位にはならず、見も知らぬ人々のためにも一生懸命に感染防止のに取り組んでくれたからであります。本学の「建学の精神」は「ともに生きる命を大切にしよう」「稀有で輝ける命に自ら気づいていこう」と言うことかと思えます。皆さんは、まさにこの一年でその精神の具現化をなしてくれました。素晴らしいことと思えます。そんな皆さんに私たちがどの程度お返しができたのか、については甚だ不安なところもありますが、皆さんの行動に勇氣と確信をもらいながらこの一年、なんとかここまで頑張れたところもあろうかと思っています。

おそらく皆さんは近い将来「コロナ世代」と呼ばれるのではないかと大変気になっています。しかし、皆さんは例年の学生たちのように座学や実習で学ぶより遥かに大切な数多くのことを、「コロナ禍」という状況の中、悩みや苦しみと隣り合わせで学んできたことと思えます。どうか、そこから生み出してきた「人としての優しさや強さ」をそれぞれの次のステップで十分に生かして欲しいと思います。卒業生の皆さんなら、間違いないこの地域の活性化に十分に貢献できると思いますし、何より、一人一人が願うべき幸せを勝ち取ることができる、と確信しています。

どうか、健康でみんなの幸せのために自分自身の存在を誇りに思い、強く生き抜いてください。皆さんならできます。皆さんが私たちの学生であることに心から感謝し、誇りに感じていることを重ねて申し上げ、簡単措辞ではありますが、はな向けの言葉といたします。

卒業おめでとう。

二〇二一年三月十九日・二十日

帯広大谷短期大学学長 田中 厚一